

埼玉親善大使レポート



留学期間：令和5年1月～令和5年12月

留学先：オーストラリア（ゴールドコースト）

氏名：鈴木 遥日

オーストラリアについて

オーストラリアは南半球に位置する島国で、過ごしやすい気候と豊かな自然が特徴です。コアラやカンガルーなどの野生動物をイメージする人も多いでしょう。実際、私が滞在していたホームステイ先の近所でも野生のカンガルーを見ることができました。またゴールドコーストはオーストラリアの中でも美しいビーチが多い場所として有名で、サーファーズパラダイスやバーリー・ヘッズビーチなどは常に海水浴やサーフィンを楽しむ人々で溢れていました。ここでは私がオーストラリアで経験したことや現地の人たちに体験してもらった日本文化などを紹介していきたいと思います。

1. オーストラリアの学校

私は現地の公立高校の高校一年生として学校生活を送りました。日本の学校と違い、教科ごとの教室が決まっており、生徒がその教室に移動していくというシステムでした。学校の敷地内にはたくさんの教室棟があり、そのほとんどが一階建てでした。そのため時間割によっては敷地の端から端まで歩かないといけないこともありました。私が受けていた教科は英語・数学・理科・歴史・保険体育・日本語・音楽の7つです。日本語の授業のクラスメイトは日本に興味がある子ばかりだったので、日本の学校の話やアニメの話などで仲良くなることができました。またテストの前などに勉強を手伝ったり、スピーキングテストの練習相手になったりしました。日本と違って部活動のようなものはありませんでしたが、私は学校のバンドに参加していました。掛け持ちが可能で、吹奏楽やマーチングなどの4つのバンドに所属していました。週に一回の合奏やレッスンのみで、コンクールも楽しむことが目的のすごくリラックスした環境での活動でした。ちなみにホストブラザーはバレーボールチームに所属していました。



2. ホームステイについて



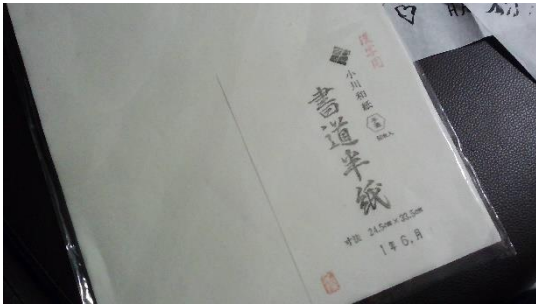
私のホームステイ先にはホストマザーと、ホストブラザーとシスターが二人ずついました。また、term 4からはブラジルからの留学生が来て7人で生活をしていました。一番下の妹以外は同じ高校に通っていたので、基本的に皆で徒歩通学していました。周りに店などはなく、一面にサトウキビ畑や林が広がっていました。放課後は兄妹たちと自転車を乗りに行ったり、林の中を探検したりしました。ホストマザーはとても親切で素敵な方で、私のためだけにポットに緑茶を作ってくれたり、コロナになってしまったときにお粥を調べて作ってくれたりと、少しでも私が安心できるように日本の食べ物などを出してくれました。他の兄妹も勉強を手伝ってくれたり、遊びに誘ってくれたり、常に私を気にかけてくれました。休日は友達との予定があるとき以外は基本ホストファミリーと過ごしました。朝食は起きた人からパンなどを焼いて食べました。寝る時間は大体21時半くらいで、そのあとは各自部屋で好きなことをして過ごしました。



3. 埼玉県のPR活動

私は埼玉県のPRのために、小川町の名産である小川和紙を持参しホストファミリーの前で実際に書いて見せました。皆の好きな言葉を和訳して和紙に書き、プレゼントしました。和紙のザラザラとした質感が不思議だったようでとても気に入ってもらえました。皆には扱いやすい筆ペンなども体験してもらいました。和紙にインクが染みこんでいく感覚が初めてで最初は苦戦していましたが、それも楽しんでくれていました。和紙だけでなく漢字にも興味をもってくれて、私の名前の由来を話したり、皆の名前の漢字名を考えたりしました。





学校にはアニメ好きの友達がたくさんいて、一緒にアニメを観たり、アニメについて話したりしました。私は「神様はじめました」という、埼玉県川越市が舞台になっているアニメをおすすめして一緒に観ました。この作品では、土地神になった人間の女の子と妖の恋模様が描かれていて、和風な雰囲気が魅力のアニメとなっています。作中では、富士見櫓跡（御嶽社）がモデルになった神社や蔵造りの街並みなど、川越の美しい風景が存分に描かれています。なんとあのいも恋も手土産として登場しています。フィクションでありながらも日本の文化や宗教観を上手く盛り込んだこの作品を、私の友達はすごく気に入ってくれました。

さいごに

私にとってオーストラリアでの生活は単なる語学学習ではなく、新しい人たちに出会い、新しい世界を知る、とても人間的に成長した経験だったと思います。そして私が無事に知らない土地で生活できたのは、ホストファミリーをはじめとした周りの人たちの支えがあったからでした。また、日本を出ることで日本のいいところやオーストラリアの人たちから見た日本を知ることができました。私はまたいつかオーストラリアに行きたいです。そして、これから留学する人にもオーストラリアを選ぶことをおすすめします。

